

Title	日韓条約を巡る日韓教会の共通認識：1965 年前後を中心にして
Author(s)	高, 萬松
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.5, 2012.3：2-4
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=3872
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

日韓条約を巡る日韓教会の共通認識 —1965 年前後を中心にして—

高 萬松

はじめに

1965年6月22日に日韓基本条約が調印された後、国会での批准を阻止するために、韓国教会が批准反対運動を全国的に展開したことについては前回の『聖学院大学総合研究所News letter』で言及した¹。そこでは韓国教会の反対運動を中心に論じたが、本稿では日韓教会同士がその条約を巡ってどのような認識に立っていたのかについて考察したい。

本「研究ノート」の主題と関連のある先行研究は皆無であると言ってよい²。太田修「韓国での韓日条約反対運動の論理」という論文があるが、この論文は主に日韓条約の条文に対する反対論理に論点が集中されている。後半の、1頁の分量で韓国での反対運動が日本に及ぼした影響について言及している。すなわち、反対運動の影響で日韓教会の交流が拡大されたという見方であるが、太田の日韓教会交流それ自体に対する関心は希薄であると言ってよいであろう³。以下、日韓条約を巡って日韓の両国教会同士における共通認識を二つの観点で考察したい。

1 日韓問題を「心の問題」と扱っている

日韓教会は日韓の間に横たわっている問題が「心の問題」だという共通認識を持っていた。これを究明するために、当時韓国においてキリスト教言論の媒体であった『基督教思想』に掲載されている論説と、その頃に韓国を訪問していた日本基督教団総会議長・大村勇牧師の説教とを比較してみるとよいと思われる⁴。

『基督教思想』において1965年度の幾つかの日韓会談関連記事の論調は、韓国と日本との間にある問題を「心の問題」、あるいは、「心理的な問題」と扱っている。1965年6月号の「韓日の問題は『心の問題』」と題する時評の冒頭には、「韓

日間の国交正常化問題をめぐる多くの難題の底流には何よりも『不信』という根本的な心の問題が据えられている」と記されている⁵。これは僅か1/2頁分量であるが、36年間にわたって韓国人の心が日本の支配によって傷つけられたということが指摘されており、またその傷が未だに癒されていない最中に日韓国交正常化という問題が起こってしまい韓国の世論の対日感情を悪心させたと指摘している。このような指摘は戦前から累積された国民感情の表れと理解されうるが、無視できないのは戦後、それも日本の政府ではなく、日本の教会に対して次のように批判しているということである。これは戦後、日韓教会がまだ和解していなかった時期で、日韓条約反対運動が激しい時期のものだということを念頭に置きたい。すなわち、『基督教思想』の「論説」で金観錫は言う。

「我々が日本の教会の指導者たちに会う度に感じるのは、彼らが真に神の審判に対して赦しを求めておらず、国家と社会の悪に対しても不屈の姿勢を持って[対処して]いないことである。それゆえ、[彼らは]贖罪に焦点を置かず、また彼らの国がアジア民族に犯した罪悪がどれほどであったか、何を補償してその罪悪の痕跡を洗い捨てるかという考えは持っていない。一言で日本のキリスト者たちは[我々に]安い同情を示しているが、神の赦しを求めるとか、また赦された者としての厳粛な姿勢を整えていない」⁶。

換言すれば日韓の教会の間で最優先的に要求されるのは同情ではなく、心の和解だということである。それは日韓国交の正常化の前に必要なものであったのである⁷。

日韓の問題を心の問題と規定している韓国側の見方と類似しているのが日本の教会にも見られる

ので、これについて考察しよう。それは当時日本基督教団総会議長・大村勇の説教に反映されている。1965年6月に日韓条約が調印され、9月には大村が教団の和解のメッセージを携えて韓国教会を訪問した。その翌月、彼の「まず行って兄弟と和解せよ」という説教の内容には彼の韓国訪問の体験したことが反映している。そこで彼は日韓条約に巡る問題を「心の問題」と規定しているのである。

大村は次のように言う。「預言者アモスが『二人もし相会せずば争で共に歩かんや』（文語訳、3：3）と言っております。われわれは本当の人格的な出会いというものがなければ、相手を知ることができないし、また共に交わることもできません。日朝問題のむつかしさは、その根本は、実に、この問題であります。日本人が朝鮮人を知らないという問題であります。朝鮮人の心を知らないという問題です」⁸。韓国を訪問し、両国間の問題を「心の問題」と理解した大村は、韓国教会に対する日本基督教団の見方に大きな影響を与えたと思われる。

2 「国交正常化」は賛成、「日韓条約」には反対という見方

1965年6月22日に日韓条約が調印されると、それに関する韓国キリスト者たちの激しい動きがあった。その反応として『福音と世界』の1965年6月号と8月号には「日韓会談とキリスト者の立場」、「日韓友好への道」と題する記事が掲載されている。また『教団新報』にも日本基督教団・社会委員会の見解が表明されている。これらの資料は日韓条約に対する日本キリスト者の見方の理解に役に立っている。

『福音と世界』所収の二つの記事の内容から日本の教会の対応として以下2点が挙げられる。第一に、韓国キリスト者の日韓条約批准反対運動が日韓教会交流の契機となったということである。『福音と世界』によれば、当時韓国キリスト者の

反対は日本のキリスト者にショックを与えた⁹。恐らく日本のキリスト者は韓国キリスト者がその条約を受け容れるだろうと思ったのであろう。それゆえ、日本のキリスト者は韓国キリスト者の批准反対運動に問いかけられ、「初めて日本のキリスト者は、韓国のキリスト者の意識や問題を知ったし」、「日韓のキリスト者の交わりはこれが最初の契機」になったと言っているのである¹⁰。第二に、『福音と世界』は日韓条約に対する韓国のキリスト者の見方を正しく捉えている。それは韓国教会が日本との国交の回復を望んでいるということである。これは日本基督教団・社会委員会の見解と同様である。つまり、日韓教会は日韓国交正常化には反対していない。「当委員会としては、次のように考えております。……日韓条約については、国交の正常化そのものに反対することはできません」と『教団新報』は言う¹¹。しかし続いて「条約の内容には不明の点が多く、疑惑のある点を明らかにする必要がある」と指摘し、そのような理由により、教団社会委員会の委員の多数が「日韓条約に反対」していると表明しているのである。しかし、日韓条約反対のために、日韓両国の教会が力を合わせて運動を展開することはなかった。

結び

日韓条約の批准をめぐる韓国教会は超教派的に批准反対運動を展開した。反面、日本の教会、とりわけ日本基督教団は「教団として考えるとき、全国の教会のなかには、さまざまな意見があり、またこの問題に対する学習不足のため、賛否の判断に困っているところもあるのが現状であります」¹²と述べられているように、まとまった見解を出すことはなかった。日韓条約を巡る反対論理も両国の間では異質なものもあったにも関わらず、日韓の両教会は以下の点で一致した見方を持っていた。すなわち、日韓の問題は何よりも「心の問題」であるということ、そして教会における反対

運動は、国交正常化に対する反対ではないという
共通認識であった。

- 1 拙著「日韓条約批准反対運動の中のキリスト者たち」、
『聖学院大学総合研究所News letter』21巻3号、聖学院
大学総合研究所、2011年、2-5頁、。
- 2 例えば、DBPIAという韓国語論文検索ツールで「韓日
条約」というキーワードで調査すると、3件の論文が確
認可能である。また、CiNii（国立情報学研究所学術情報
ナビゲータ）からは200以上の日本語論文が検索できる
が、日韓教会との関連テーマは見当たらない。池明観
「日韓条約批判の論理に関する実証的研究」と題する論
文は両国における反対論理の把握に重要である。その中
で第二章「日本における日韓条約反対論」は『世界』誌
に注目し、『世界』の反対論理が韓国の知識人たちの論
理と類似していると見ている。池明観『日韓関係史研
究』新教出版社、1999年、119-196頁。
- 3 太田修「韓国での韓日条約の反対運動の論理」、『歴
史研究』（第9号、2001年）、歴史学研究所〔오오타 오
사무<한국에서의 한일조약 반대운동의 논리>「역사연
구」역사학연구소〕。
- 4 『基督教思想』は1957年に初めて発行されたものであ
り、例えば、現在にもソウルの長老会神学大学校におい
て最も参照頻度の高い雑誌である。
- 5 時評「韓日問題は『心の問題』」、『基督教思想』
（1965年6月号）、大韓基督教書会、8頁〔<한일문제
는 마음의 문제>、「기독교사상」대한기독교서회〕。
- 6 金観錫「教会と韓日問題」、『基督教思想』（1964年
6月号）、大韓基督教書会、5頁〔김관석<교회와 한일
문제>、「기독교사상」대한기독교서회〕。
- 7 論者・金観錫が1970年代になって日韓教会交流に積極
的であったということは、その背後に両国教会間の「和
解」であったに違いない。
- 8 大村勇『大村勇—日本の説教Ⅱ 7』日本キリスト教
団出版局、2005年、55頁。
- 9 「日韓友好への道—李仁夏牧師に聞く」、『福音と世
界』（1965年10月号）、新教出版社、79頁。
- 10 同上書、83頁。
- 11 『教団新報』第3470号、1965.12.18、3頁。
- 12 同上書。

（こう・まんそん 聖学院大学総合研究所助教）